



岐阜県教育懇話会  
〒503-0023  
大垣市笠木町229-5  
(0584)91-2478  
口座番号 00800-3-5390

領 綱

われわれは歴史と伝統を尊重し、日本にふさわしい中正な教育を推進する。  
われわれは教養と品位の向上につとめ、真理愛の精神とともに、明るく純粋な教育を研修する。  
われわれは個人の自主尊厳を尊重しつつ、政治的中立を厳守し、主体性を堅持する。

治十年に、洞察していた内務卿大久保利通は、

改革を進

○今上陛下の御心を思う

あゝ、元旦早々に、能登半島大地震が起きた。歴代の天皇陛下は、東日本大震災においても、熊本大震災においても、お心を痛め、国民に寄り添うようにご視察、ご心配なされてこられた。

思えば、令和の年を迎えた、朝見の儀で、今上陛下は「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法に則り・・・国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します」と語られた。そして日々神に祈り、国事行為をはじめ、その他の公務に誠実に精励されておられる。誠にありがたいことである。

明治天皇のように国民のことを思い、国民に寄り添いながら、「一人も其の所得ざる時は、皆朕が罪なれば」と考えておられる御心に対して、少しでも報いようという政治家はいらぬだろうか。国内外の課題が山積する今日、党利党略、自己保身を専らとする状況は寒心にたえない。

歴代の天皇陛下の御心に添うことが、政治を機能させ、日本の安定と、国民の幸せをもたらすものと思ふ。

巻頭言 明治天皇の詔(みことのり)  
『国威宣揚の御宸翰』を拝して  
岐阜県教育懇話会飛騨支部 浅野義英

○はじめに  
令和の時代は「美しい調和」を目指して幕が開けた。

しかし、理想とは裏腹に令和二年にはコロナによる世界的な流行と混乱、三年にロシアによるウクライナ侵略が、昨年年は、中東においてハマスによるイスラエル攻撃が行われ、イスラエルによるガザ侵攻が続いている。

国内では一昨年の安倍首相の襲撃事件と統一教会の問題、そして、昨年度末には派閥のパーティー券の不記載などと混乱が収まらない。

特に国内の政治状況を思うにつけ、大切なことを見失っていると思わざるを得ない。そんな時、明治天皇の御宸翰を拝する機会があった。

○明治天皇の『国威宣揚の御宸翰』  
これは、慶応四年(明治元年)三月、御歳十六歳のときに、今後の政

治方針を定めた「五箇条の御誓文」とともに出されている。御誓文は皇祖皇宗の神に誓われ、御誓文は国民に知らしめたもので、御誓文は教科書に出てよく知られているが、御宸翰はほとんど知られていない。

御文章は短いが、重要な御言葉がいくつもある。その一つが「今般朝政一新(維新)の時に膺(あたり)、天下億兆一人も其所を得ざる時は、皆朕が罪なれば、今日の事、朕自身骨を勞し、心志を苦しめ、艱難の先に立ち・・・」である。

当時の情勢は、欧米各国の帝国主義による覇権争いが世界の隅々まで到り、日本の独立を保つためには幕府の封建体制から、近代化に向けた大改革が急務であった。そのような中で、若い御身ながら、皇統を継がれた天皇の御覚悟が察せられる。その後、明治新政府は欧化政策を進め、矢継ぎ早に近代化の基盤をつくる改革を断行していく。その急激さは新たな物質的進歩主義を蔓延させ、拝金主義を生み、長年培ってきた日本の伝統文化や精神の軽視となった。この急速な変化による弊害を、明

めるとともに、いかんともしがたく「(欧化の弊害は)十年か十五年かの後、其の人出でて改正すべし」と、その苦衷を漏らした。

この欧化主義の行き過ぎを憂慮なされたのは、明治天皇であった。明治十九年、帝国大学に行幸遊ばされた際、「各学科を巡視するに、理科、化学、植物科、医科、法科等は、益々進歩を見るべしと雖も、主本とする修身の学科は・・・古典講習科ありといえども、過日観ることなし」と述べられて、修身を本にした伝統文化の復活を願われた。明治二十三年に出された教育勅語は、そのような背景のなかで出されたものである。

そして、昭和十二年、今の国会議事堂の新築落成式の際、貴族院議長だった近衛文麿は、祝辞を述べるにあたり、当時帝国大学の教授であった平泉澄博士に意見を求めた。

博士は、先の御宸翰の「汝億兆、能々朕が志しを体認し、相率いて私見を去り公義を採り、朕が業を扶けて神州を保全すべし」を示し、議員の在りようを説かれた。近衛公は、政党

の抗争や軍部の台頭で行き詰まる現状にあって、この御宸翰は政治家たるものの教育勅語であり、議事堂の落成式の祝辞に相応しいとして引用し、発表したのである。



2025.1.25  
 皇學館大学道徳科教育  
 第9回  
 発表  
 (1)「道徳授  
 業の実践報  
 告」

第9回皇學館大学 於：伊勢市  
 道徳科教育研究協議会  
 研究大会（報告）  
 編集部

昨年十一月二十六日（日）、伊勢市の皇學館大学において第9回道徳科教育研究協議会の研究大会が開かれた。

研究テーマは「学校教育と道徳教育」で、学校の道徳教育は、教育目標に基づき、全教職員で組織的に推進することになっている。課題はどのように教職員全体の理解を図り、チームとして取り組めるようにするかである。開会式で協議会代表の渡邊毅教授は、「学校教育全体で行うためには、どのようにカリキュラムマネジメントを進めたら効果的かが問題である。本日の研究大会で明らか

浪速学院浪速中学校西村香穂教諭  
 新採一年目ながら道徳授業で生徒が躓きやすい場面を想定し、課題がもてる導入、ねらいに迫る展開、まとめの振り返りとそれぞれの場面で工夫した指導事例を報告した。

(2)「現代的な課題を解決する力の育成―教科横断的な道徳教育に挑戦―」  
 鈴鹿市立白子中学校諸橋宏政教諭  
 道徳教育のねらいは未知の状況にあっても道徳的な判断ができる力に身に付けることにある。そのためには道徳の授業だけでなく教科や学級活動の中でも考えさせ、判断させる場面をもつべき。実践例として社会科の中で「エアーズロックの登頂禁止」の意味を考えさせたり、学級通信に道徳的な内容を載せて判断を求めたりしたことを報告した。

(3)「単元を貫く授業展開」  
 浪速高等学校・中学校安倍俊允教諭

中学生には勉強のサイクルを整えてやる必要がある。道徳科の時間も細切れにならないよう、学校で計画された月別テーマにそったストーリーを考え、題材を選んで行った。例えば十一月は信頼がテーマで、行事として全校校外学習が組まれている。その行事の成功に向けて特別活動で準備を進めながら、道徳で信頼を内容とする授業を仕組み、学年・学級の生徒の信頼関係を培っていった。

二、シンポジウム

テーマ「学校全体でどのように道徳授業に取り組むか」  
 司会は岐阜聖徳学園大学教育学部山田貞二准教授で、最初に三名のパネラーから基調報告があった。

①「道徳教育研究指定校での実践」  
 桑名市教育委員会井桁見主幹

まず先進校（聖徳学園大学河合昌先生の実践）の事例に学んだ。そこで教師のベクトルを同じにし、全校で道徳教育を推進する土台をつくれた。新採からベテランまで、誰でも授業が45分で完結できるよう授業法の確立を図った。指導のポイントを共有化し、日常的に授業を見合いつける指導案、教材・教具の蓄積をした。また道徳教育を授業だけでなく、日常的な生活指導や行事の指導の中に道徳の指導項目を意識して指導を行うようにした。

②「長年道徳教育を教育の柱とした学校教育を推進」  
 笠松町立笠松小学校五藤政志校長

当校は昭和43年、文部省指定「道徳教育研究発表会」を開催以来、五十年以上研究を継続した先進校。学校経営の核に道徳教育をすえ、「あいさつ」「掃除」「生き物の世話」が子供達の自慢になっている。一人一人がダイヤモンドカードを六年間もちあがり、時々の成長する姿を親、教

師、仲間が共有できるようになっている。笠松町も挨拶運動を展開しており、地域と連携した活動も行い道徳教育を推進している。校内では総合単元プログラムを生かした道徳科授業の在り方を研究しており、全教育活動を通して道徳性を育成する体制をとっている。

③「各教科等の特質を生かした道徳教育とその要となる道徳科の授業実践等の研究」  
 豊中市立十六中学校坂井英仁校長

当校は文部科学省教育課程研究指定校事業で道徳科の研究指定を受けている。道徳教育の全体計画を作成し、各教科・領域における実践した。三年生理科の「運動とエネルギー」では科学技術の利用と環境保全を考えさせ、道徳的価値「自然愛護」との関連を図った。道徳科の授業研究では発問、話し合い、板書の工夫を行った。また道徳の授業を担任に固定せず、学年でローテーション授業を行ったり、学年・全校道徳の形で行ったりして、全校一体になって道徳教育に取り組んだ。

三名の発表の後は、会場からの意見や質問を受けてそれぞれに補充の説明が求められた。いずれの発表からも校長のリーダーシップのもと全職員の理解と普段からの実践の積み重ねが重要であることが確認された。

## 三、講演

## 演題「日本再生は日本精神(志)

の復活から」

講師 成基コミュニティグループ

会長・(二財)志教育プロジェクト

タクト副代表佐々木喜一氏

## 1、モノづくりに成功した日本

戦後二十三年でGDP世界第二位になった。その原動力は人。典型がトヨタの「カイゼン」である。労働者が主体的、自律的、能率的に生産性をあげ低コストで品質のよいモノを創り出すことができた。

## 2、人づくりに失敗した日本

日本人はまじめ、実直、勤勉と言われたが、小中高の不登校二九万人、子供の自殺五一四人、引きこもりが一五万人といずれも増加しており、自分に満足している若者は、日本は四五%と他国の七〇〜九〇%と低く、熱意ある社員数が全社員の五%というのは世界でも最低ランクである。

## 3、人づくりに投資してこなかった日本企業

アメリカと日本の上場企業の一年間の人材育成費は日本の五〇〇〇億円に対しアメリカは

四〇兆円かけている。

社外学習で自己啓発をしていない人の割合は日本は四一%に対し、オーストリア



二一%、シンガポール二二%、中国六%と日本は断トツに勉強していない。中国の発展は目覚ましいが、非常に努力しているのである。

## 4、日本精神とは何か

日本建国の精神は「八紘一宇」。世界を一つの家庭のような温かな関係とする。それを理想に、国民も世の中に役立ちたいという気持ちがある。これは二千年の間受け継がれてきたDNAのようなもので大和魂と言ってもよい。

## 5、日本精神の表れ

日本のサッカー選手のロツカールムのきれいなさや、サポーターの試合後に見せたスタンドの掃除は有名である。これは日本人の独特の美意識であり、日本精神の表れである。大谷翔平が高校一年の時に書いた曼茶羅が有名になったが、彼が求めたのは単に野球の技術ではなく精神であり人の道であった。そこにも日本人の精神性がうかがえる。

## 6、なぜ日本精神は失われたか

戦後、日本を占領したGHQが、二度と日本と戦争をしたくないとして、日本精神の一掃を図った。日本国憲法を押しつけ、軍を解散させた。教育勅語を廃止し、民主教育を進めた。また日本が悪かったという意識を植え付けるWGIP(戦争贖罪広報計画)に従ってプレスコードを徹

底し、GHQへの批判を許さず、マスコミを通じて戦前の指導者や軍部の批判をさせたため日本精神が悪いという風潮が浸透していった。

## 7、これからの日本をどう立て直すか

戦後、西欧合理主義の「やり方」Dongが重視され、志のような「在り方」Bang。日本精神が軽視された。志は日本本来からある普遍的精神であり、日本精神を取り戻さなければならぬ。

## 8、さらに歴史的な大改革がやってくる

日本は今後人口が減少し、労働人口も半減する。それに対して情報科学技術は飛躍的に高度化し、やがてシンギュラリティ(技術的特異点)を迎え、人工知能があらゆる点で人間能力を上回る時が来るという。人間の働き場がそれにより限られてくるとも言われている。

## 9、高い志を持った人材が日本を救う

教育再生会議の議論で今後求められる人間として①主体的に課題を発見し解決できる力②高い志③リーダーシップ④創造性など十一項目があげられた。その中で教育の根幹は「志の教育」である。夢は自分のため、志は世のためであり、人のためや未来のためでもある。

## 10、志共育について

京都で「志教育プロジェクト」の大会を行い、漫画で描かれた「志マンガテキスト」を発表した。教育の目的は「自ら育つ人」を育てることである。本心に志を立てることができた人は何のために学ぶのが自分から分かり、主体的に努力しつづけることが出来る。森信三先生はそういう人が「最も優れた人」だと言われた。

## 11、志共育のエビデンス

私の運営している塾で、希望校への合格率が二十%以下と言われた受験生たちに、「夢をかなえる方法」志の法則」という冊子を五回読ませ、メンタルトレーニングをして勉強に取り組ませたところ、八十%以上昇り、生活態度も非常に意欲的になっていった。志教育の成果である。

## 12、ご自身の志を知りたいと思いませんか

平成23年7月になでしこジャパンがワールドカップで優勝した。その原動力の一つが、その年の3月に発生した東日本大震災で被害にあった東北の人たちや日本人を勇気づけたいという気持ち。志であった。それがパワーを生んで不可能を可能としたのではないか。誰もがそうした志を持てる。志のあるリーダーが多くなれば日本は再生するだろう。

